

シンポジウム「放射光高圧力科学 30 年」のご案内

陽春の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、筑波の放射光施設フォトンファクトリーにおいて、我が国の高圧力下の放射光利用研究が本格的に開始されてから、約 30 年が経過しようとしています。フォトンファクトリー運転開始後まもなく、日本オリジナルのマルチアンビルプレス「MAX80」が設置されるとともに、ダイヤモンドアンビルセルを用いた X 線回折実験で世界に先駆けてイメージングプレート検出器が使用されました。その後、播磨に建設された第 3 世代大型放射光施設 SPring-8 にも、高圧研究のためのビームラインや装置が数多く設置され、国内外からの多くの研究者の利用に供されています。放射光を用いた高圧研究は、物性物理、化学、材料科学、地球科学などの広範囲の分野に渡り、多くの輝かしい成果が配信されてきました。本シンポジウムでは、この飛躍的發展を遂げた「放射光高圧力科学 30 年」を中核となって牽引してこられた先生方を講師としてお招きし、これまでを振り返るとともに、その将来展開を議論いたします。

ご多忙の折とは存じますが、是非ご参加下さいますようご案内申し上げます。

敬具

日時： 平成 24 年 4 月 27 日（金）

場所： 強羅静雲荘 会議室（神奈川県足柄下郡箱根町強羅 1320）

プログラム（予定）：

4 月 27 日（金）

12:00： 受付開始

13:00-13:20：シンポジウム開催にあたって

内海 渉（日本原子力研究開発機構 量子ビーム応用研究部門 室長代理）

13:20-14:00：放射光高圧力科学黎明期

下村 理（高エネルギー加速器研究機構理事・物質構造科学研究所長）

14:00-14:40：放射光で見た静水圧の重要性

竹村 謙一（物質・材料研究機構 先端材料プロセスユニット 主席研究員）

14:40-15:20：X 線共鳴磁気散乱を用いた磁気構造解析

奥部 真樹（東京工業大学応用セラミックス研究所 助教）

（休憩）

15:40-16:20：高圧下の分光学と回折学の相補性

青木 勝敏（東北大学金属材料研究所 客員研究員）

16:20-17:00：放射光を用いた液体・アモルファスの研究

辻 和彦（慶応義塾大学理工学部 名誉教授）

（休憩）

19:30-20:10：放射光から中性子へ

片山 芳則（日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門 ユニット長）

20:10-20:50：放射光高圧力実験で分かった地球内部

八木 健彦（東京大学物性研究所 教授）

20:50-21:30：総合討論 放射光高圧科学の将来展開

参加費： 5,000 円（当日会場での宿泊を希望される方は別途 10,000 円でご予約を承ります）

問い合わせ：シンポジウム「放射光高圧力科学 30 年」実行委員会

岡田卓（東大物性研）TEL: 04-7136-3231 E-mail: okataku@issp.u-tokyo.ac.jp

内海渉（原子力機構）TEL: 029-282-6442 E-mail: utsumi.wataru@jaea.go.jp